

特 集

広がる人材育成・ネットワーク

日本サニテーションコンソーシアムの活動

日本サニテーションコンソーシアム
事務局長

河 井 竹 彦



1. はじめに

日本サニテーションコンソーシアム (Japan Sanitation Consortium, JSC) は、2009年 (平成21年) 10月に発足し、4年が経過しました。JSCは、アジア・太平洋水フォーラム (Asia-Pacific Water Forum, APWF) の衛生 (Sanitation) に関するナレッジハブ (Knowledge Hub) の役割を担う目的で設置されました。APWF ナレッジハブは、水に関する知識を集約・蓄積し、必要とする国や機関に対して、その蓄積された情報を提供する拠点であり、現在、17知識領域について設置され、そのうちJSCを含め3機関が日本で活動しています。

JSCの構成機関は、(公社)日本下水道協会、日本下水道事業団、(一財)下水道事業支援センター、(一財)日本環境衛生センター、(公財)日本環境整備教育センターの5団体であり、いわゆるオフサイト、オンサイトの両方の下水処理を扱う団体が含まれており、開発途上国のサニテーションに関する課題に幅広く対応できる体制になっています。

2. JSCの取り組み内容

JSCの活動は、その設置要綱に定められており、次のような活動をすることとしています。

- ①ネットワーク：国際援助機関と連携し、各国の衛生関係機関とのネットワークを構築します。
- ②情報収集：アジア・太平洋地域の衛生に関する情報データベースを構築し、各国の衛生改善に関する調査を実施します。
- ③知識の普及と情報共有：衛生に関する日本等の先進国の知識と経験の普及、途上国の情報と知識の共有のための国際セミナーを開催します。
- ④国際援助機関への支援：ADB、JICA等国際援助機関に対し、衛生関係技術者の養成教育を実施すると

ともに、プロジェクトの調査や適正技術の選定に対する助言や専門家の紹介などを行います。

実際の活動では、4項目に明確に区分できない場合が多く、複数の項目に渡ることがあります。今回は、広がる人材育成・ネットワークに関連したJSCの活動について報告します。

3. ネットワーキング

JSCが最初に取り組んだ課題は、ネットワーク作りでした。国内外のワークショップやセミナーなどの機会を捉え、名刺交換などを行い、JSCの活動を説明し、知名度を上げることから始めました。

- (1) シンガポール国際水週間 (Singapore International Water Week, SIWW)

シンガポールでほぼ毎年開催されている上下水道に関する展示会であり、セミナーやワークショップが開催されます。JSCは、2009年6月末に開催された第2回のSIWWに参加し、同時期に開催されたアジア・太平洋水フォーラムのGoverning CouncilにおいてKnowledge Hubの活動計画を発表し、設立することが認められました。

2010年のSIWW2010においては、JSCは、GCUS及びPUB Singaporeとの共催で、6月30日に“Sanitation Knowledge Hub Seminar (衛生ナレッジハブセミナー)”を実施し、ナレッジハブの役割などについてディスカッションを行いました (写真-1)。

SIWWは、2013年は開催されませんでした。2014年6月初旬に開催が予定されており、いろいろな方々と知り合えるいい機会になることと思います。

- (2) ストックホルム世界水週間 (World Water Week in Stockholm, WWS)

ストックホルム世界水週間は、ストックホルム国際水協会が中心に開催される水環境研究者の権威が一堂に会する年に一度の大会であり、ワークショップ、セ



写真－1 衛生ナレッジハブセミナー（シンガポール国際水週間、2010年6月30日）

セミナー、展示会が開催されます。「水のノーベル賞」と称されるストックホルム水賞が、この期間に世界の水分野における顕著な功績（科学・工学・技術・資源・教育・政策分野）を称えて贈られます。日本人としては、久保超博士（1994年）、浅野孝博士（2001年）が受賞しています。

日本からは地理的に遠い場所で開催される大会ですが、世界の水に関する著名な方々が集まる場所です。筆者は、2009年8月、2010年9月と参加する機会に恵まれましたが、一度は参加してみるのもいいと思います。

(3) APWF ナレッジハブ・ラーニング・ウィーク（APWF Knowledge Hub Learning Week）

アジア開発銀行（Asia Development Bank, ADB）の主催により、APWF ナレッジハブ・ラーニング・ウィークが2010年4月19日から23日の1週間、フィリピン国マニラ市にあるADB本部で開催されました。全部で17のナレッジハブがありますが、JSCを含め16ハブからの参加がありました。この期間には、ナレッジハブの活動に関する提案とそれに対するディスカッション、グループに分かれての意見交換、マニラ近郊のラグナ湖保全活動の視察なども織り込まれ、参加者間の交流が図られました（写真－2）。



写真－2 APWF ナレッジハブ・ラーニング・ウィーク（ADB本部、2010年4月）

オブザーバーとして参加していたオランダの国際援助団体SNVの方とも知り合いとなり、ブータンにおけるカントリー調査や、ベトナムでのセミナーへの参加などの活動につながっています。

(4) WES Hub と開発金融機関との戦略会議

JSCは2012年3月に発足した水・環境ソリューション

ハブの活動内容を集約し、海外向けの情報発信、啓発活動等を行う役割を担っています。その活動の一環で国際金融機関との戦略会議に参画しました。開発銀行としてアジア開発銀行、米州開発銀行、アフリカ開発銀行、イスラム開発銀行そして南アフリカ開発銀行が参加し、WES Hubの6つのAAA都市と神戸市国際会議場で水ビジネスの可能性や方向性について意見交換が行われました。同時に人と人のネットワーキングも行われました。これを契機にADBとWES Hubは、2013年8月にも戦略会議を行いました。今後とも持続的な交流を続ける必要があると考えています。

(5) 個人的な出会い

ネットワーキングでは、知り合いになった人を介して、その人の知り合いを紹介していただくことも多くありました。たとえば、「世界トイレ機構（World Toilet Organization, WTO）」を立ち上げたジャック・シム氏（Jack Sim）との出会いがそうです。日本トイレ研究所の上幸雄氏を介しての出会いでした。シム氏は、2010年5月にJSC事務局を訪れ、トイレ普及の大切さを語ってくれました（写真－3）。



写真－3 ジャック・シム氏（左から4人目）のJSC訪問（2010年5月14日）

ジャック・シム氏がWTOを立ち上げた11月19日は、国連が2013年7月にシンガポールや中国、ロシアなど約100カ国の共同提案により「世界トイレの日」に制定されました。現在、世界で25億人が適切なトイレにアクセスできず、11億人が野外での排泄（Open defecation）を余儀なくされていると報告されています。

4. 知識の普及と情報共有

JSCは、サニテーションに関する知識の普及と情報共有を活動の一つとしています。これは開発途上国の関係者への働きかけであり、人材育成の側面もあると考えています。日本の経験・知識はもちろんですが、開発途上国で実施されているベストプラクティスも含め、ワークショップやセミナーを通じて、広く情報や知識の共有を図る努力をしています。JSCが主体的に企画に携わったワークショップや会議などを紹介します。

(1) 国際衛生年フォローアップ会議 (Follow-up Conference of the International Year of Sanitation (IYS))

国連のミレニアム目標 2015 年への中間年であった 2008 年を日本などの提唱で国際衛生年として様々な啓発行事が行われた。それらの活動をフォローアップするための会議が、2010 年 1 月 26 日、27 日に東京青山にある国連大学本部エリザベス・ローズ国際会議室で開催されました。国連ミレニアム目標の衛生分野の達成を図るために 3 つのセッションに別れ討議が行われました。それは、社会における衛生、衛生の最適技術、衛生の財源であり、JSC は衛生の最適技術についてセッションの運営を行いました。

筆者は、ADB の Ms. Amy S.P. Leung さんと共同議長として、セッションの運営を行うと共に、国内外の 6 人のサニテーション技術に詳しい方々に発表を御願いました。それらの方々は、国連環境計画の青木千鶴さん、2009 年ストックホルム水賞のインドの Bindeshwar Pathak 博士、中国から Dr. Hui Zhao さん、インドネシアから Ms. Yuyun Ismawati さん、ブラジルの SABESP から Mr. Antonio Cesar Costa e Silva さん、東京大学の滝沢智先生でした。必要とされる技術のマトリックスの作成や人材の育成が提言されました (写真-4)。



写真-4 国際衛生年フォローアップ会議・セッション 2 (国連大学本部エリザベス・ローズ国際会議室、2010 年 1 月 27 日)

(2) ADBI-JSWA-JSC アジア・太平洋地域サニテーション (汚水と汚泥マネジメント) ワークショップ
本ワークショップは、2011 年 10 月 4 日～6 日の日程で IWA-ASPIRE のサイドイベントとして、アジア開発銀行研究所 (ADBI)、(公社) 日本下水道協会 (JSWA) 及び JSC の共催で開催されました。2 日間のワークショップと 1 日のテクニカルツアーが計画されました。

2 日間に渡るワークショップは、IWA 理事のポールライターさんの基調講演に始まり、日本、マレーシ

ア、中国のサニテーション戦略、東京都、神戸市、香川県多度津町、シンガポール、オーストラリアの下水と汚泥の再利用、途上国の衛生問題と適正技術、韓国、インドネシア、ベトナム各国のサニテーションの現状と財源、東日本大地震のサニテーション被害、ADB によるクリーン開発メカニズム (Clean Development Mechanism, CDM) の事例紹介など、多岐にわたる内容でした¹⁾。

(3) 第 2 回アジア・太平洋水サミット テクニカル・ワークショップ

第 2 回アジア・太平洋水サミットは、タイ王国チェンマイで 2013 年 5 月 14 日から 20 日にかけて開催されました。JSC は、5 月 17 日午後には都市の水安全保障分野のテクニカルワークショップを開催しました。テーマは、「持続的なサニテーション・マネジメント達成に必要なもの (What is needed to achieve sustainable sanitation management?)」とし、日本から 4 人、タイ、マレーシア、ベトナム、ADB から各 1 人ずつの 8 人のスピーカーを招き、各国のサニテーションの現状を発表いただき、パネルディスカッションを行いました。

発表とパネルディスカッションを通じて、持続的なマネジメントのためには、サニテーションの計画の重要性、実施のための財源の確保、政策合意と強力なイニシアティブなどが会場の合意として得られました²⁾。

5. おわりに

JSC の活動は 5 年目に入りましたが、4 つの活動の取り組みを通じて、今後ともアジア・太平洋地域のサニテーションの改善に貢献したいと考えています。2015 年 4 月には、韓国テグ市で第 7 回世界水サミットが開催されます。日本の水ビジネスの海外展開を図る下地作りに役立つ活動も行いたいと考えています。関係機関および関係者の方々のご支援を御願いたします。

〈参考文献〉

- 1) ADBI-JSWA-JSC ワークショップ事務局、「ADBI-JSWA-JSC アジア・太平洋地域サニテーション (汚水と汚泥マネジメント) ワークショップ」、下水道協会誌 Vol.48, No.590 (2011/12)、pp.41-47
- 2) 河井竹彦、「第 2 回アジア・太平洋水サミットについて」、下水道協会誌 Vol.50, No.609 (2013/07)、pp.64-68